

## 第54回全国女性集会 in 滋賀「分散会まとめ特集」



9月26・27日開催した女性集会のニュース330号でお伝えできなかった分散会の様子をまとめました。

### 退勤時間調査・団体交渉で 見える組合活動を広げよう！

#### 第1分散会

「今の新人は生活力がないと言われるが、みんなのことを考えて行動することを第一に指導している」との発言がありました。

また、「時間に余裕がない」「患者さんとの時間が持てない」などの問題は人手不足が要因であり増員要求が必要なことを確認しました。超勤申請の問題も出され、職員アンケートを実施、不払い残業で団体交渉をした経験等が語られました。

師長のパワハラ問題では、全職員アンケートにとりくみ、団交を申し入れた例が紹介されました。

様々な問題がでましたが、見える組合活動を広げようと思意思統一しました。

### 誰もが働きやすい職場をめざし 職場の問題を支部で追及しよう！

#### 第2分散会

「NICUで二交替夜勤5回、時間外勤務は当たり前になっている」「二交替は、若い人の支持がある一方、若い人の離職にもつながっている」「不払い超勤が多い」「妊産婦への夜勤の強要がある」などの職場実態が出された一方で「妊活の結果がでる

まで、夜勤免除が受けられる」という支部の報告もありました。超勤問題では何が超勤なのかハッキリさせることが大事と確認。

また、準夜—日勤、日勤—深夜が辛いという理由で二交替に流れる施設が多くあるが、日勤—深夜では超勤はしないことを支部団交で追及しようと思意思統一しました。

「再雇用者は9回夜勤、リーダーや時間外勤務もしている」「中高年の労働条件改善を進めて欲しい」など中高年、再雇用者も働きやすい職場をめざし支部で追及しようと思話し合いました。

### 組合の見える化、支部団体交渉を進めよう！

#### 第3分散会

「夜勤専従看護師の導入が広がっている」「夜勤専従は勤務時間内に仕事をしているが、他の職員はサービス残業をしている」また、東北「正循環プロジェクトチーム」メンバーからは、「夜勤は誰がやっても辛い。正循環勤務を試し、健康面を重視した働きやすい環境を作りたい」「女性や子育て中、中高年の意見も取り入れ、次の課題に挑戦したい」と発言がありました。「業務に振り回され、患者と向き合う看護ができていない」「二交替制導入が進み、月4回を超えている」「日勤—深夜、準夜—日勤を無くしたいが、人手不足」など、職場の実態が出されました。本部からは「組合の姿を見せることが大事だ。その一つが団体交渉。行動で示そう」と助言がありました。



## 目指す看護をするために 心身ともに余裕が持てる環境に！

### 第4分散会

「あなたの看護・介護は何色ですか？」の問いかけで始まりました。参加者からは「バラ色」「グレー」「患者の色に染まるため、私は無色」など色々な意見が出ました。

続いて「長時間・二交替制勤務の危険性を話しても伝わらない」「夜勤明けの休みが確保できない」「夜勤は自分の身を削っている」「乳がんや子宮頸がんも労災にすべきだ」

「子育て中の看護師が辞めない状況を作らないといけない」「心身ともに余裕がないと自分のしたい看護ができない」「再雇用は賃金は減るが、夜勤回数は減らない」「骨折したのに病休が取れなかった」など職場の状況や意見が出されました。本部からは、東北正循環プロジェクトチームの挑戦も紹介され、「フランスでは11時間連続勤務が大問題になっている。長時間夜勤は何とかしないといけない。めざす看護をするためには、心身ともに余裕がないとできない。あきらめずにたたかおう」とまとめました。



## 看護師の我慢は、患者にも我慢を強いることになる。職場改善を！

### 第5分散会

「二交替夜勤は、家に帰るのがやっ」と「夜勤がない外来は楽と言うが、一人職場で休憩も取れない」「年休が取れない」「『やりがい』が大事だが、ミスがないようにするのが精一杯」「サービス残業をなくしたい」「病休者が一人出ると、職場が混乱。増員が必要」療養介助職や病棟保育士の参加者からは、「看護師が足らないと療育も介護も十分な援助ができない」等、職場で感じていることが出されました。「交渉に当該スタッフが多数参加し、3人夜勤が実現した」「医療事故の振り返りから、全患者に生体モニターがついた。現場が声を出すことが大切」との前進的な発言もありました。 議論

のまとめとして、「患者のためにも職場を変えることが重要。自分たちが我慢することは、患者さんに我慢をさせることになる。言うべきことは言おう」と意思統一しました。



## 今こそ組合の出番です。 職場点検で 要求改善をしよう！

### 第6分散会

二交替と三交替勤務のミックス夜勤、一人ミックス夜勤が広がっており、「個々の希望でミックスに」「それぞれ休憩がばらばらの状態」「個人の賛成・反対ではなく、働き続けられるシステムが必要」「職場からやりたいと声が出たが、組合で反対。撤回させた」など、実態や意見が出されました。

「勤務表をチェックし、問題点を指摘している」「安全衛生委員会を利用し、夜勤点検委員会を行っている」など、積極的な支部の取り組み報告もありました。

人員不足が大きな原因で、まともな勤務が組めないことが問題と意見が一致しました。本部からは、「いま国立病院機構、施設当局は経営第一主義で現場の状況を理解していない。今こそ組合の出番だ。職場のチェックで要求に結びつけよう」「今後は基本的なことは交渉事項となる。『要求書』を提出し、団体交渉等で解決していこう」と助言があり、根本的な解決に向けては、「新署名」の一人10筆目標を集め切ろうと意思統一しました。



**女性部が先頭に立って・がんばろう！！**